

2021年度 大学入学共通テスト 英語筆記(本試験) 分析

試験時間80分

難易度	出題分量	出題傾向
<p style="text-align: center;">難化</p> <p>大幅に総語数が増加したことに加え、様々な形式の問題が出題されたことにより、読み解くのに時間がかかるようになったため、難化した。</p>	<p>設問数は昨年センター試験から7つ減ったが、本文・図表・設問・選択肢を含めた総語数は約1000語増加した。</p>	<p>発音・アクセント問題や文法問題がなくなり、読解問題のみの出題となった。また英文の題材も生活の様々な場面が想定され多様化した。</p>
<p>総評</p> <p>単独での発音・アクセント・文法問題がなくなり、すべてが読解問題で構成された。またすべてのリード文が英語になった。これに伴い総語数も大幅に増加した。内容面も、メール・広告・ウェブサイトなどの日常よく扱う素材から物語文・評論文まで多様化している。多くの問題には図表が添えられており、本文内容の流れや要旨をとらえるだけでなく、複数の情報源から必要な情報を早く正確に見抜きそれらを統合する力が求められた。全体的にセンター試験と比べて難しくなったと感じた受験生が多かっただろう。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	A=携帯電話でのメールのやりとり B=ウェブサイト	10点	必要な情報を素早く正確に読み取る力が求められている。Aの問2では、最後の発言に対してどのように返答するかが問われた。これは試行調査では見られなかった形式であった。Bには多くの数値情報が含まれており、問1と問3がそれに関連した出題だった。センター試験とは異なり、ここでは料金の計算は必要なかった。全体的に英文も易しく、設問も解きやすい。
第2問	A=データと評価 B=オンライン上の掲示板	20点	第1問と同様に、必要な情報を素早く正確に読み取る力が求められた。本文は平易だが情報量は第1問と比べてやや多い。試行調査と同じく、Aでは<事実>と<意見>を分ける問題が各1題、Bでは<事実>を問う問題が2題出題された。
第3問	A=ウェブサイトのQ&A欄 B=学校通信	15点	Aはウェブサイトでの「おすすめのホテルとそこへのアクセス方法及び時間」、Bは学校通信に掲載された「ボランティア募集」の記事で、どちらも理解しやすい状況設定であった。Aにはホテルへの到着手段と時間の計算問題が含まれており、図だけでなく、本文の情報を読み取らなければ解くことができなかった。Bでは、出来事が発生した順番通りに並べる問題と本文の記事を読んだ後にとるべき行動を推論する問題が出題された。
第4問	Eメールと添付ファイル	16点	教師と生徒のEメールでのやり取りに電車の時刻表と水族館の混雑状況のグラフ資料が添付されている。解答するためには、メール本文で主張を理解し、添付資料とすり合わせていかなければならない。メールと添付資料における情報量は第3問までと比べて多くなっているため、複数の情報を効率よく探し出し、統合して正確に考える力が必要である。

第5問	ニュース記事を基にしたプレゼンテーションの準備	15点	英文を読んで、発表用のスライド中の空所を埋め完成させるというのが特徴的な問題。本文が物語調になっており長めだが、原則的には時系列で話が進むため、内容は追いかけやすい。しかし、どの動物のことを言っている文なのかを見失わないように読み進める必要があった。第2問ではストーリーの中での登場人物の役割を分類させる問題が出題された。問3の出来事の発生順序を問う問題に解答に不必要な選択肢が1つ含まれたので一瞬戸惑う受験生が多かったと思われるが、空欄の前後をよく読めばどの選択肢が不要なのか気づくことができたろう。
第6問	A=評論文 B=評論文	24点	Aは「アイスホッケーの安全性向上への取り組み」に関する英文を読んで、ポスターの空所を埋める問題。主題である concussion は本文に明確に説明されており、ポスターに書かれていることと照らし合わせながら本文を読み進めていけば、解答に必要な情報も探しやすいと取り組みやすかったらう。 Bは「さまざまな甘味料」に関する英文を読んで、内容を合致させる問題。問2に絡んで本文中に甘味料の名称(ステビアなど)が多く登場するので、それぞれを見間違えないように丁寧に空欄を埋める必要がある。第2問以外の問題では、正解となる選択肢はすべて本文の表現を言い換えたものになっている。特に第4問の筆者の主張を選ばせる問は選択肢がすべて抽象的にまとめられた表現になっており、本文の全体の内容把握が必要である。

高2生へのワンポイントアドバイス

読解問題だけの出題になった。さらに試験時間に対して読まなければならない英文量がセンター試験と比べてかなり多くなり、80分の中で全問をしっかりと解ききり高得点を叩き出すのは多くの受験生にとって楽なことではないだろう。「正確さを決して犠牲にすることなく、いかに問題処理速度を上げていけるか」が攻略のポイントとなる。

そのためにはまず「速読力」の養成が不可欠だ。この「速読力」を生み出す土台になるのが「豊富な語彙力」と「しっかりとした文法力」である。外国語である以上、不明な単語が多くては正しく読めないことは言うまでもない。さらにいくら読解力を問う問題のみで構成されるようになったとはいえ、英文法を学ばずに正確な読解などあり得ない。まずは1文1文を正しく理解できることが、長文を理解する最初の1歩になることを忘れないでほしい。

ただ、大量の問題を素早く確実に読み解けるようになるためには、日頃から実戦演習を採り入れ、無駄のない読み方・解答の導き方に対する意識を高めていくことも大切だ。特に3年の夏以降は様々な問題形式と多様な内容に慣れるために豊富な演習量を確保したい。そのためにも早い時期に基本単語の意味を覚えきってしまい、文法・語法の基礎知識の確立を目指そう。